



工学部・工学研究科 留学生相談室の活動

塩谷捨明*

Activity of the Advisement Office for International Students,
Graduate School of Engineering

Key Words : Aid for international students, Japanese and English education, Cyber education

1. はじめに

2003年1月より前任の森田清三先生に替わって留学生相談室室長をお引受けいたしました。前室長は、相談室専任のいわゆるAタイプ講師の採用など相談室の発展に積極的に取り組み、相談室がその役割遂行に向けて順調に動き始めたのを確認され、後任にバトンタッチされました。相談室のスタッフとともに前室長の引かれた路線を充実させていきたいと考えております。相談室の活動については、「留学生相談室だより」を介して皆様にお伝え、ご理解いただいているつもりですが、尚一層のご理解に向けて、折角の機会を頂いたので、本稿でも留学生相談室の最近の活動状況をご報告したいと思います。

2. 相談室の整備

2002年8月、留学生相談室は総合研究棟から、新設されたGSEコモン棟に移転してきました。相談室のスペースは永年お世話になった総合研究棟時代に比べて、2倍になり、悲願であった相談室スタッフの居住環境の改善やスペースの確保により、工学研究科の海外向け窓口としての留学生相談室の外観が整いました。留学生の受け入れ・送り出しや大学の国際化に向けての組織的に取り組むインフラが整備されてきたという状態です。現在留学生相談室のスタッフは、フルタイムで相談室の仕事に取り組むスペシャリスト(いわゆるAタイプの専任講師)3名

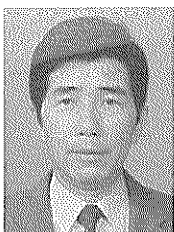
と、工学研究に足場をおき相談業務に当たる教官2名(いわゆるBタイプの専任講師)、事務補佐の留学生相談員1名、それに私の計7名で運営されております。このような陣容を整えることができたのは、国際交流・留学生委員会(委員長、辻毅一郎教授)、留学生相談室前室長 森田清三教授ならびに工学研究科執行部の英断の賜であります。

元々、留学生相談室は、国際交流のため受け入れる留学生の修学、研究、生活、に関する相談や助言・指導にあたり、また福利厚生に関すること、さらに日本語能力向上や日本文化の理解に関すること、を扱うと委員会規定に定められていますが、一言でいえば工学部/工学研究科の300名を越える留学生に関する諸々のことを扱う、「留学生後方支援組織」であると理解しています。しかし、大阪大学が「地域に根ざし世界に伸びる」をモットーにますます国際化を図ろうとしている今、その役割を工学部にくる留学生支援だけでなく、送り出しの留学志願者支援にも重点が置かれねばならないと、考えています。また、英語による工学教育や専門教育も真の国際化には必要で、それを留学生相談室が積極的にサポートしていくことも、国際交流を支えるという観点から重要です。

3. 相談室業務

現在、留学生相談室の業務を簡単にまとめてみますと

1. 留学生が支障なく学習・研究活動に入れるための相談；奨学金・授業料免除に関する情報提供や申請の補助、住宅情報の提供・斡旋、ボランティアからの物品提供の仲立ち、情報提供、ビザ申請などその他の諸々の相談業務、物品貸し出しなど。
2. 理工系日本語クラスと日本語学習支援
工学部、工学研究科の学生を対象として、前期-



* Suteaki SHIOYA
1945年2月生
1971年京都大学大学院・工学研究科・衛生工学専攻・博士課程中退
現在、大阪大学工学研究科応用生物工学専攻、教授、工学博士、生物プロセスシステム工学
TEL 06-6879-7444
FAX “
E-Mail shioya@bio.eng.osaka-u.ac.jp

後期にそれぞれ、基礎コース、作文コース、コミュニケーションコースの3コースを開設している。

3. 日本文化等紹介と交流活動

特別講演会や年3回の留学生を交えた懇親パーティー、見学会、学外交流団体の活動への参加、ボランティアとの交流、Home Visitなど。

4. 工学英語の授業

3人の専任講師の工学英語I(前期)、工学英語II(後期)の担当、特に工学英語Iは人気のプログラムようです(今年も800名近くが受講しています)。スタッフの増強を視野に入れた議論が必要だと相談室では考えています。

5. 日本人学生の留学支援

協定校との単位互換性を利用した短期留学、インターンシップなどの積極的支援を進める予定である。現在はそれほど数は多くないので、構想中の大阪大学海外拠点と連携をとりながらの積極的展開が望まれている。今夏カリフォルニア大で行われる語学研修プログラム試行にも協力している。

6. 刊行物の刊行

関係者に留学生相談室の活動を理解支援していただくための「留学生相談室だより」の定期的刊行。また、留学生向けの英語での履修案内を前室長の主導の基、刊行にこぎつけている。今後、シラバスなどますます英語での出版物の刊行は、重要になってきている。

以上、簡単に業務を羅列したが、留学生受け入れの基本は、お互いの文化の違いは理解しながら、留学生が日本人学生と同じように活動できる環境を作っ

ていくことだと思います。これは大学においても、住んでいる地域においてもということであり、家族を含めた交流ということになると、地域のボランティアの支えが大きな力になります。

4. 将来の発展に向けて

これからの方向の一つは、業務のIT化をもっと進めることであろう。何処の世界でもIT化は進んでおり、留学生相談室でもスタッフの皆さんが色々な方向のIT化、相談室ホームページの充実化や、日本語教育サイバー化など、また、大阪大学フロンティア研究機構と共同して、日本語オンライン教育やオンラインコミュニティの形成を阪大工業会のTechno Net Web上で構成する試みなどに、留学生相談室としても積極的に協力している。また、大阪大学海外拠点を通じた国際交流を支える組織の母体形成に関わっていくことも議論が出始めている。大阪大学独法化後の工学研究科の国際化に伴って、今後ますます留学生相談室の果たす役割は多様化し、重要になってくるものと思われる。

このように、留学生相談室は従来からの課題に向けて努力しつつ、新しい方向性も模索しながら運営されてきております。幸い、優秀な相談室スタッフに囲まれておりますので、室長の役目である舵取りも問題ないのではと、安心しております。ただ、留学生相談室の業務は工学部/工学研究科の教職員のご支援はもとより、学内、学外の関係者、やボランティアの方々のご支援ご協力なくしては円滑に運営できません。生産技術振興協会関係者の皆様の暖かいご支援を賜りますよう紙面をお借りしてお願い申し上げます。

